

【評価実施概要】

事業所番号	0171100209		
法人名	株式会社 さくらコミュニティーサービス		
事業所名	グループホーム 満快のふる郷さくら千歳		
所在地	〒066-0078 北海道千歳市勇舞1丁目7番15号 電話 0123-27-3987		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成19年10月25日	評価確定日	平成19年12月1日

【情報提供票より】 (平成19年10月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 1月 16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14人, 非常勤 2人, 常勤換算	8.2人

(2) 建物概要

建物構造	RC 造り		
	2階建ての	1~2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円		
その他の経費(月額)	・水道光熱費 20,000 ・暖房費 10,000円(11月~3月)		
敷金	(有) (150,000円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(10月25日現在)

利用者人数	14名	男性 6名	女性 8名
要介護1	3	要介護2	4
要介護3	3	要介護4	2
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 84.4歳	最低 59歳	最高 96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	尾谷病院, 尾島歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成16年1月に法人会社として3つ目のグループホームとして設立されたホームである。建物は、区画整理された新興住宅地にあり広々とした敷地をもつ。ホーム内部は広々としたリビングルームを中心に、昔懐かしいかんじき等が飾られ茶箆やダンスを置き、利用者の作品(書、刺繍、写真)等も飾っている。金魚を育て、庭の草花を飾り、ゆったりとしたソファが置かれ、車椅子の利用者にも余裕のある空間である。利用者は思い思いの過ごし方をしており、自由な雰囲気である。近隣の子供たちが敷地内に遊びに来て、利用者の心を慰めている。近隣は若い家族が多く、地域の社会資源となっており、人間性あふれる環境づくりに貢献できるグループホームとして、将来が期待できる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 利用者の権利義務については契約書に項目を立てて明記し、入居者家族に説明し同意を得ている。全職員が緊急時に対応できるよう定期的に救急救命講習を受けたり看護職員の指導で応急手当を学ぶなどケアサービスの質向上を目指した体制づくりが望まれる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員全員で話し合い検討し管理者がまとめている。ケアサービスの質向上につながり、職員の共通理解やケアサービス取り組みへの熱意にもつながっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の情報を活かして、町内会や地域の行事に参加し連携を図っている。また、ホームのお便りも利用者・家族の了解を得て町内会に回覧して頂き、ホームの理念や活動内容をお知らせし地域の理解や協力につながるよう取り組んでいる。ホームの建物は、鉄筋で耐震構造になっているので災害時、近隣の避難場所になり得ることも考えられ、地域との協働も視野に入れている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 「さくら便り」を発行し、家族にはホームの様子や行事等を写真入りでお知らせし、電話や手紙による報告もしている。職員は、家族来訪時、家族との交流を大切にし、気楽に意見や苦情が話せるように配慮している。ホームの内外に、苦情申し出機関との窓口も設定している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	管理者は、町内会の福祉委員を担っており、町内会行事には、可能な範囲で参加し、積極的に交流して地域密着サービスの実践に取り組んでいる。地域の子供たちのダンスの発表の場としてホームに来て披露して頂いたり、ボランティアの来訪も意欲をもって働きかけている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念と共にホーム独自の理念「六つの誓い」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の申し送りで毎朝「六つの誓い」を唱和し、利用者とのかかわりの中でも常に意識して、理念実現に向けて方向性の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は町内会の福祉文化委員を務め、町内の会合に出席している。利用者と共に、夏祭りなどの行事やバター作り、アートフラワー作りなどに参加して地域の人々との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員で話し合い討議して管理者がまとめている。自己評価、外部評価を活かして具体的な改善策に取り組みサービスの質向上につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の具体的な記録をまとめている。定期的に開催できる体制になってグループホームへの理解が深まり、地域交流やボランティアとの交流も行われ、利用者サービスの向上につながっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	3ヶ月ごとに包括ケア会議があり出席している。市町村担当者とは文書、電話、来訪による照会、依頼を行っているが、今後もサービス向上に向けて連携を深めてゆく。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時にはケース記録を提示し、日々の暮らしの様子や状況をお知らせしている。来訪の少ない方には定期的に電話をしたり、毎月1回在所確認書を送付する際に手紙を同封している。預かり金の台帳には確認印を頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所及び外部の苦情申出の窓口を明記している。職員は家族の来訪時、積極的に声かけをし気軽に意見を表せるよう努力している。意見箱も設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	止むを得ず退職や異動がある場合、利用者への影響やダメージを考慮し、場面ごとに対応を考えている。	○	法人内の異動や退職など職員交代が比較的多いようである。利用者、家族と職員の馴染みの関係は大切なので、職員交代によるダメージを防ぐ取り組みや、時間をかけた引継ぎ方などを検討して頂きたい。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には1月かけて職場内研修を行っている。外部研修については職員の希望を取り入れた参加となっている。研修後は、会議の中で報告を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームが行う研修や講座に参加し交流している。同業者の相互訪問を検討している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	納得した利用となるよう、利用前の見学や昼食を食べていただくなどして、グループホームに馴染んでいただく工夫をしている。入居してからは、家族と相談しながら細やかな配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の調理法、唄、踊りなど、生活の中で、利用者から職員が学ぶことも多い。巻き寿司を作るとき、入居者が手をだしてくれるよう居間のテーブルに材料を並べるなどの工夫もしている。職員より手際がよく感心させられる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット会議の中で、利用者一人ひとりの思いについての話し合いや細やかなアセスメントを行って、思いや意向の把握に努めている。日々の行動や表情から汲み取ることもある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当職員をきめており、コミュニケーションパートナーとして、日常的な話の中で情報交換を行っている。ケア会議の中で課題を検討し、家族の意見を反映させながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月毎の見直しを行い、変化のある時はその都度見直している。毎日の申し送りの中で、一日1名ずつ現状の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	提携医や看護師による健康管理やホーム内で行えるリハビリ等を行っている。可能な方は、毎朝テレビの腰痛体操をしている。職員が会話を楽しみながら利用者の不自由な足をマッサージしている姿も見られた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者にはかかりつけ医がおり、常勤の看護職員が連携を取っている。提携病院から毎週往診をして頂き、利用者は月2回受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族の意向を伺い、かかりつけ医の指示を頂きながら職員全体でターミナルケアを行う方針を共有している。家族へは事前に終末期生活支援に関する指針を説明し、同意を得る体制も整っている。最近看取り終えたケースがある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、一人ひとりの誇りやプライドを大切にした対応を心がけ、丁寧な言葉かけをしている。ケース記録に他者の名前を記載する場合は、イニシャルのみとし個人情報にも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、職員は利用者に寄り添いながら支援している。利用者の力量に応じて役割を担って頂き、ゆったりとした暮らしを確保している。昼食も声かけをしているが、一斉に食事するのではなく席に着くのが遅い利用者も、職員は急かすことなく見守っていた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の好みを把握しており、1人ひとりの状態に合わせ食事を支援している。職員と会話をしながら、また利用者同士で会話をしながらの食事風景である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の自由な入浴を支援し、夜間入浴している方もいる。入浴チェック表をつけており、週2回は入浴するよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の中で入居者の力量に合わせ、食事の準備、茶碗洗い、植木の手入れ、金魚の飼育など職員と共に行っている。役割の遂行や楽しみごとを工夫している。入居者の書、額に入れた刺繍作品、貼り絵などの作品を居間に飾り、来訪者の心を和ませている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候のよい日には、散歩や外気浴を積極的に行っている。また、買物、ドライブも利用者の希望に応じてお誘いしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中鍵をかけないが、夜間は防犯上かけている。職員は入居者の行動パターンを把握し、常に見守りを意識している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策では定期的に避難訓練を行っている。今年は夜間を想定し職員1人の設定でおこなった。地域の協力がどのように得られるかが今後の課題で、運営推進会議で積極的に働きかけてゆく。	○	全職員が緊急時に対応出来るよう定期的に救急救命講習を行ったり、看護師職員の指導で勉強会等を工夫するなどして、ケアサービスの質向上を目指して頂きたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、栄養のバランスも考慮している。ゼリーや好物で利用者の食事の量、水分量の工夫をしながら対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした共用空間は、カーテンで採光の調節をし、生活観あふれる昔ながらの工具、飾り物、茶箆筥などが目に入る。庭の花々がテーブルの上で彩を添え、落ち着いた家庭的雰囲気醸し出している。ゆったりしたソファで利用者がくつろいでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベット、カーテン、洗面台が作り付けである。使い慣れたものを持ち込んだり、家族からの贈り物や自作の書や塗り絵を壁に掛け、その人らしく過ごす工夫が随所に見られる。		

※  は、重点項目。